

神人調化と経済倫理の再生

大巡思想の回帰的社会契約主義による経済倫理の
再生と神人調化の意味

2023 学術発表資料 • 発表者：洪吉董 韓国学中央研究院 哲学科

目次

- 1 経済倫理危機の診断
- 2 回帰的社会契約主義とは？
- 3 神人調化の哲学的意味
- 4 回帰的分配観の核心原理
- 5 『典経』の根拠となる節および実際の事例
- 6 社会契約主義と大巡分配観の比較
- 7 構造改革と経済倫理の回復
- 8 結論および示唆点

現代の社会契約主義と資本主義の限界

- ❗ 社会契約主義の逆説
正義の実現を目標としたが、かえって個人主義の深化により共同体基盤が弱体化
- ❗ 経済的自由の過剰
基本的自由と機会均等の強調が、無制限な経済的自由へと変質
- ❗ 倫理的責任の不在
経済活動の共同体的責任と倫理的義務の軽視

社会契約主義の発展の逆説：

「最初の正義の実現という経済倫理の問題を解決しようとした社会契約主義が、意図せず経済倫理の失踪を招来した。」

経済倫理回復の必要性

- ✓ 経済の循環性の回復
資本と富の独占ではなく、社会的循環を通じた分配正義の実現
- ✓ 個人と共同体の調和
単純な契約を超えて、互惠的關係への転換が必要
- ✓ 制度の基礎構造の改革
分配正義を実現するための構造的アプローチの必要性

「人類の経済倫理危機に対して、大巡の回帰的社会契約主義は、経済の循環性に立脚し、制度の基礎構造改革という正義の原初的な力の復活を、現代の経済倫理危機の代案として提示する。」

回帰的社会契約主義の概念

大巡思想が提示する「回帰的社会契約主義」は、既存の社会契約主義の限界を克服し、循環の原理を通じて経済倫理を再生させる思想的枠組みである。

回帰的社会契約主義の循環構造

- 個人と共同体の相生関係の形成
- 経済的行為の倫理的基盤 ↓
- の確立 神明(神明)によ ↓
- る制裁と調律 分配正義 ↓
- の実現と回帰 ↑

回帰性の意味：
「すべての人間の行為は、宇宙的秩序の内で必ず『立ち回り』を経験し、経済分配と社会的報酬もこの循環論理に従う。」

回帰的社会契約主義の特徴

- 🔄 循環的経済動機の回復
経済行為が、断絶した個人の利益ではなく、循環的な互惠関係として再定立
- ⚖️ 既存の契約主義の限界の克服
個人主義と共同体の弱体化から脱し、相生的秩序を構築
- 🔗 神明(神明)基盤の複雑な分配ネットワーク
超越的制裁と恩恵の循環による複雑系的な分配システム
- 🔄 恩恵と感(感)の回帰原理
善行と悪行がいずれも立ち返るという徹底した行為責任性の強調

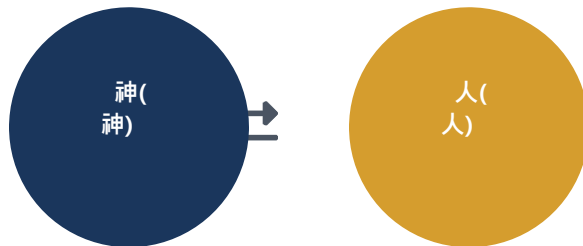
「大巡の回帰的社会契約主義は、第一に、菩薩資本主義の循環的経済動機回復思想をまず強調し、第二に、社会契約主義の経済倫理再生の問題点を循環性の危機として診断し、第三に、社会契約主義的分配観の経済倫理危機の代案として神人調化を提示する。」

神人調化(神人調和)の概念

- 神(神)と人(人)の関係
超越的存在(神明)と人間の有機的な相互作用を通じた調和的秩序の構築
- 二元論的対立の超越
超越と現実、精神と物質、道徳と経済の二分法的対立を超えて、統合的世界観を提示
- 二つの次元の制裁
人間の道徳的義務の遂行(人)と超越的正義の実現(神)の結合

神人調化の本質：

「神人調化は単なる共存ではなく、神明と人間の相互呼応と依存を通じた正義実現の哲学的根拠である。」



経済分配と回帰(回帰)の原理

- 🔄 循環的宇宙観
すべての行為とその結果は、宇宙的秩序の中で必然的に『立ち返る(回帰)』
- 🔄 恩恵と感のメカニズム
肯定的行為(恩恵)と否定的行為(感)がいずれも循環し、当事者へと立ち返る

経済的分配の回帰性

資源と富の公正な循環を通じて、社会的正義と調和を実現

「大巡の回帰的社会契約主義の分配観は、世のすべてのものが循環するという原理に基づき、経済的な富と資源の分配も循環的正義に従って行われるべきことを強調する。」

核心的示唆：

神人調化は、超越的制裁(神明)と人間の意志の結合を通じて、単なる契約を超えて、より深く堅固な経済倫理を可能にする

回帰的分配観の核心原理

- 🔄 循環性と回帰の原理
すべての人間の行為は、宇宙的秩序の中で必ず『立ち返る』ことを強調
- ⚖️ 平等と尊重の実践
身分と階層を超越した人間の尊厳の承認と実践的平等
- 🌐 神明中心の複雑系ネットワーク
超越的存在(神明)を通じた、より精緻な分配システムの作動
- ↔️ 感(感)と恩恵の相互作用
怨恨と報恩が循環的に解消される分配倫理の体系

実践的含意：

「回帰的社会契約主義は、分配の正義を単なる個人の責任ではなく、複雑な神明秩序の中での循環的構造として理解する。したがって、個人の自由と権利を超えた共同体的責任と互恵的關係を要求する。」

『典經』の根拠となる節

1. 尊厳性と平等の実践

「上帝は卑賤な人にも必ず敬語をお使いになった...今より後は嫡庶の名分と班常の区別はない」

『典經』教法1章10節

2. 神明を通じた分配の制裁

「上帝が教訓してのたまわく『今、神明をして人に臨ましめ、心に墨縄を当てさせ...』」

『典經』教法3章24節

3. 複雑系的な神明ネットワーク

「汝らは市場や集会に行き、わが言を信じれば生きる道が開けるであろうに...彼らの神明は知るであろうから...」

『典經』教法1章2節

4. 具体的な実践事例

大巡思想と社会契約主義の比較

社会契約主義

- ✕ 個人主義的アプローチ
個人の自由と権利を強調するが、共同体基盤が弱体化
- ✕ 単純な契約関係
契約を通じた社会的協力体系だが、循環性が欠如
- ✕ 責任不在の問題
経済的自由のみが拡大し、倫理的責任は弱体化する

大巡の回帰的社会契約主義

- ✓ 神明(神明)中心の複雑系ネットワーク
超越的制裁倫理と個人の義務の均衡的統合
- ✓ 構造的正義の強調
本源的な制度改革を通じた経済的正義の実現
- ✓ 循環性/回帰性の原理
恩恵と感の回帰を通じた分配正義の実現

比較項目	既存の社会契約主義	大巡思想の回帰的分配観
基本原則	基本的自由、機会均等、自尊心	神明を通じた正当な分配、宇宙的秩序、互惠性
分配メカニズム	市場経済と法的契約	神人調化に基づく互惠的循環体系
システム構造	単純系(契約中心)	複雑系(神明-人間-制度の複合的ネットワーク)
正義実現の方式	個人の権利保障中心	相生(相生)と報恩(報恩)の循環秩序

大巡思想を通じた経済倫理の回復

-  循環性の回復による分配正義
恩恵と感(感)の回帰を通じた経済的循環構造の確立
-  制度の基礎構造の改革
神人調化に基づく公正な分配システムの構築
-  複雑系ネットワークの適用
神明(神明)中心の複合的な責任構造の確立

回帰的社会契約主義の含意：

「大巡の回帰的社会契約主義は、現代の経済倫理危機に対する代案として、経済の循環性に立脚し、制度の基礎構造改革を通じた正義の原初的な力の復活を提示する。」

現代社会に対する示唆

-  倫理的経済体制の可能性
個人主義と利己心ではなく、互惠的關係に基づく経済活動
-  共同体中心の経済倫理
相互尊重と均等な機会の実質的保障
-  韓国固有の思想の現代的適用
大巡思想の神人調化の原理を通じたグローバル経済倫理モデルの提示

結論

「神人調化を通じた回帰的社会契約主義は、単なる理論的モデルではなく、現代の経済倫理危機を実質的に解決しうる実践的パラダイムを提示する。これは循環性と相互性の原理に基づき、経済的分配正義と社会的責任を回復する道である。」